

## 38 めえめえ牧場 一人懐っこいヒツジと遊べますー

長い間のオーストラリアへの出張、ご苦労様でした。真冬の南半球から残暑厳しい日本へ、暑い毎日が大変でしょう。体調をくずされないことを祈っています。

中学校理科に季節が生じる理由を考える学習があります。このとき「夏が暑いのは太陽までの距離が短くなるからだ」と考える生徒に、8月はスキー、2月は海水浴というオーストラリアのカレンダーを見せて南半球では季節が逆になることを話し、太陽の南中高度の変化によって季節が生じることを学ばせたことを思い出します。

さて、あの広い大地を駆けるヒツジの群れを正彦君や由佳ちゃんに話して聞かせても、「ぼくはヒツジを見たことがない」と言うので、北海道にでも連れて行ってやりたいとの話、了解です。それならば、山添村のめえめえ牧場はいかがでしょうか。オーストラリアとは比較になりませんが、人懐っこいヒツジと触れ合うことができます。

めえめえ牧場は山添村の施設で、ここでは頭と足が真っ黒なイギリス原産のサフォーク種と毛の長いコリデール種、合わせて50頭ほどのヒツジが飼育されています。係の方のお話



ではサフォーク種は毛肉兼用、コリデール種は品質の良い毛がとれるということでした。ふわふわとした毛に包まれ、やさしい目をしたヒツジに触れ、150円のヒツジせんべいをあげることができます。こうしたヒツジとの触れ合い体験の

後で、オーストラリアで撮った写真を見せて広大な外国の様子などを話して聞かせてあげてはいかがでしょうか。

また、めえめえ牧場の北側には羊毛館があります。ここでは、牧場で取れた羊の毛を材料に作品を作ることができます。私が行ったとき、数人の女性がブローチを作っていました。大阪から来た人たちが散策の後、自分へのお土産を作って帰るのだということでした。羊毛館の入館料は要りませんが、ヒツジの人形づくりは400円、ストラップ、ブローチづくりなどには300円の体験料(材料費を含む)が必要です。

ご家族連れでお出かけになるのであれば、朝からはヒツジと遊び、午後は羊毛館での体験がお勧めです。手芸のお好きな奥様もお喜びになると思います。近くには野外バーベキュー場がありますから、自然の中でのバーベキューを楽しむことができます。用具や燃料は準備されています。10人用の施設が炭3kg付きで3000円ということでした。

ご出張の間、さびしい思いをしていた皆さんと楽しい1日を過ごしてください。

(平成21年9月・正彦君たちのお父さん・光博さん宛て)

## スポットの案内

めえめえ牧場(電話0743-86-0131)は山添村北野にあつて、見学できるのは9:30~16:30(放牧は10:00~15:00)です。休業日は毎週水曜日(祝日の場合は翌日)と年末年始、お盆で、見学は無料です。羊毛館は電話0743-86-0430です。

JR・近鉄天理駅からは上野行きでバスで「国道神野口」下車、徒歩5.2Km、JR・近鉄奈良駅からは山添方面行きバスで「北野」下車徒歩0.6Kmです。車では、名阪国道神野口ICから神野山方面へ5.4Kmです。

## 理科のワンポイント「植物繊維と動物繊維」

私の子どもの頃は、母が手袋やマフラーを編み、小さくなったセーターをほどいて編み直してくれました。ほどいて毛糸の束にするときには私たちが手伝いました。ほど

いた毛糸は、右の図のような竹筒で作った道具を使って湯気で延ばすのです。女の子は高学年になると自分の手袋などを自分で編んでいました。毛糸という名のと



おり、毛糸の原料は、ヒツジ、アルパカ、アンゴラヤギ、カシミアヤギ、ラクダ、アンゴラウサギなどの動物の毛です。

私が最初に勤務した学校のある宇陀郡御杖村には絹糸を取るためのカイコを飼っている農家があり、どの子もカイコのことをよく知っていました。そして、カイコに食べさせる桑の葉を採り、カイコの世話を手伝っていました。絹糸はもっともすぐれた繊維とされ、日本が世界の生産量の80%を占めたこともありました。これらの動物繊維は洗剤に弱いのですが、保温性に優れ、私たちの衣服になくてはならないものです。

植物繊維は綿や麻の繊維です。熱に強く、水分を吸収しやすい特徴があります。また、アルカリ性の洗剤にも強く、下着の材料として欠かすことができません。

最近では、化学繊維で作られたものも多いのですが、私たちの衣服はもともと生き物からもらった繊維で作られています。食べること、着ることなど、私たちの生活のすべては、植物や動物に支えられているのです。